



1日中 古事記を満喫

劇・遊・食・学 古事記さんまい

平成 24 年 9 月 9 日 (日) 10 時～
やまと郡山城ホール
参加者数 1,000 名

劇

『語り部の里』大和郡山 & 『神話の国』雲南 市民劇団フェスティバル

○大和郡山市民劇団『古事語り部座』

歌劇『古事記 (ふることぶみ)』上演

開演：16 時 場所：大ホール

脚色・演出：松村武 音楽：はじめにきよし

演奏：はじめにきよしふることぶみスペシャルバンド

天地開闢から、イザナギ・イザナミ、天の岩戸、スサノオのヤマタノオロチ退治、大国主と因幡の白兔、山幸海幸そして神武天皇の誕生まで、古事記上巻に描かれた世界を生演奏と歌と芝居でつづる壮大な物語。

この日の舞台に向けて、2年半前に結成され練習を続けてきた大和郡山市民劇団『古事語り部座』。

2時間半に渡る大舞台、歌劇『古事記 (ふることぶみ)』を無事演じきりました。(詳細は p.12・13)



○島根県雲南市民劇団

『異伝 ヤマトノオロチ』上演

開演：13 時 場所：小ホール

原作：佐古和枝 脚本・演出：亀尾佳宏

制作：雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会

『神話の国』島根県雲南市より市民劇団をお迎えし、創作市民劇を上演していただきました。



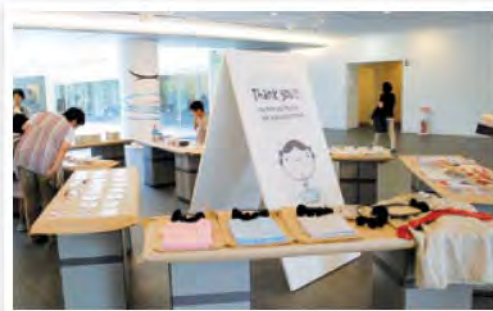
大ホールのエンディングでは、雲南市民劇団も登場。まさに古事記でつながった雲南と大和郡山。翌年には大和郡山市民劇団が島根県雲南市を訪ね公演することになりました。

遊

オープニングトークライブ

出演：松村 武・サキタハデメ・新谷きよし・亀尾佳宏
 時間：11時15分～11時30分
 場所：エントランスロビー

古事記ざんまい1日の幕開けです。



フルコトアート&マーケット

日時：9月7日(金)～9日(日) 10時～18時
 場所：展示室

古事記モチーフの古代モノを集めたアートマーケット。古代もの制作ワークショップもありました。



古事記クイズラリー

時間：10時～19時
 場所：館内各所

『古事記～なぞとよの書』をもらい館内をめぐり、古事記にちなんだクイズに挑戦。

食

古事記を食べよう!

時間：10時～19時
 場所：レストラン「カステッロ」

古事記にちなんだメニューをホールレストランで楽しんでいただきました。

古事記セット

- ・山幸うどん(鴨うどん)
- ・海幸丼(ねぎとろ丼)
- ・因幡の白兔(デザート)



学

古事記関連ブックフェア

期間：9月6日(木)～10月1日(月)
 場所：市立図書館内

古事記に関するさまざまな図書や絵本などの展示(約150冊)



語り継ぐむかしむかしのはなし

時間：13時30分～14時
 場所：図書館2階集会展示室

『うみさちやまさち』『かぞえうた』のお話会





大和郡山市市民劇団『古事語り部座』

2009年11月より劇団員を公募。8歳から75歳まで、33人が集まりました。そのほとんどがまったくの素人。平日集まれる人と、土日の方が都合のいい人の2班に分かれ練習が始まりました。



松村 武さん

作品の脚本・演出を担当していただいたのは、劇団カムカムミニキーナ主宰の松村 武さん。地元大和郡山市稗田町の出身です。「知れば知るほど古事記はとてもおもしろく、奥深く、巨大です。ただ、ここに描かれる超リアルでいて生々しい世界観を伝えるのに、演劇というジャンルは最適だと思います。」

2010.8.29 劇団名決まる

上田市長より『古事語り部座』と命名されました。

2010.10.18 古事記勉強会

服部文化財係長から『大和郡山と古事記』について教わりました。演じる古事記の時代背景を知ることは大事なことです。

2011.7.10 中間発表会

土日チームと平日チーム合同での発表会を武道場で行いました。

「全チーム通して、約2時間半。長かった…暑かった…。でも、どのチームも通しでやりきり、最後テーマ曲も歌いました \(\wedge\wedge)/ なんとかできた！今後の稽古に繋げていきたいと思います。発表会には、大和郡山市長も見に来て下さいました。本番が楽しみだ、と仰ってくださいました！来年の9月には本番です！これから1年、本番に向けさらに頑張っていきたいと思います。」

(『古事語り部座』ホームページより)



2011.12.07 全曲完成

劇中歌の作詞作曲をしていただいたのは、ギター & ピアノデュオ「はじめにきよし」のサキタハチメさん。サキタさんはのこぎり奏者としても活躍中。劇中歌がこの日すべて出来上がりました。サキタさんには、歌の指導もてがけていただき、歌での感情表現など、わかりやすく説明していただきました。



サキタハチメさん

2012.2.04 オープニングイベントに出演

やまと郡山城ホール・大ホールにて、古事記1300年新たな物語の始まりオープニング・イベントが開催され、劇中歌『ふることぶみの神語り』を披露。観客のみなさんも、歌詞カードを片手に参加。全体での合唱となりました。

2012.8.16

賣太神社で行われた『第83回阿礼祭』に参加。

劇中歌『ふることぶみの神語り』を奉納。熱い歌声が鎮守の柱に響き渡りました。そして劇の成功を阿礼さまに祈願しました。

2012.9.07

残すところあと2日。明日は、すべて本番通り通す稽古。衣装、メイクはもちろん、休憩の時間もそのままやるそうです。こここのところ一緒に過ごす時間が多いため、メンバーはもう家族のようです。この楽しい雰囲気、本番に向けてテンションあげて行きます p(^.^)q

(『古事語り部座』ホームページより)



本番
です



▲ 稗田阿礼役の松村さん。客席から。

稗田阿礼と太安万侶が、おそらく当時無限にあったお話の中から、これだけは後世に残そうと絞りに絞った物語群が古事記です。なので、なるべくエピソードカットをしないように構成しました。神話篇だけですが、なかなかこういう形で通して見る機会はないと思います。千年を越えて伝わった物語と今この一瞬を生きる役者たちの人生の交錯を、しみじみと眺めていただければ幸いです。

『松村 武 古事記ざんまいパンフレットより』



▲ イザナミが次々に国を生んで、大八島の国(本州)ができた。



▲ 『はじめにきよし』の生演奏。客席から。



▲ 天の岩戸からひっぱり出されたアマテラス。これで世が再び明るくなった。



▲ イザナギのみそぎによって、アマテラス、ツクヨミ、スサノオが生まれた。



▲ 出演者全員で歌う『昔々誰かに聞いた話』。感動のラストシーン



▲ 大人以上にガンバツ小学生3人組

地域性豊かな演劇作品が創出されるとともに、市民自らが現代の語り部となって、地域が持つ歴史・文化や魅力を発信していく土壌づくりの機会となりました。

シーンはまだたくさんありましたが、これらの全員の衣装(約60着)を作っていたのは、広報紙でも募集をした市民ボランティアのみなさんでした。ありがとうございました。